

無量義經說法品第二

爾その時ときに大莊嚴菩薩摩訶薩、八萬まんの菩薩摩訶薩と、是この偈げを説といて佛ほとけを讚ほめたてまつることおわと已ともつて俱ともに佛ほとけに白もうして言もうさく、

世尊せそん、我等われら八萬まんの菩薩ぼさつの衆しゆ、今者いま如來にょらいの法ほうの中なかに於おいて、諮問しもんする所ところあらんと欲ほつす。不審いぶかし、世尊せそん愍みん聽ちようを垂たれたまいなんや否いなや。

佛ほとけ、大莊嚴菩薩及び八萬まんの菩薩ぼさつに告つげたまわく、

善哉ぜんざい善哉ぜんざい、善男子ぜんなんし、善よく是これ時ときなることを知しれり、汝なんじが所問しよもんを恣ほしいままにせよ。如來にょらい久ひさしからずして當まさに般涅槃はつねはんすべし、涅槃ねはんの後のちも、普あまねく一切さいをして復餘またよの疑うたがい無なからしめん。何なんの所問しよもんをか欲ほつする、便すなわち之これを説とくべし。

是こに大莊嚴菩薩だいしやうごんぼさつ、八萬まんの菩薩ぼさつと、即すなわち共ともに聲こゑを同おなじうして佛ほとけに白もうして言もうさく、

世尊せそん、菩薩摩訶薩疾あく阿耨多羅三藐三菩提あのくたらみやくぼだいを成じやうずることを得えんと欲ほつせば、應まさに何等なんらの法門ほうもんを修行しゆぎやうすべき、何等なんらの法門ほうもんか能よく菩薩摩訶薩をして疾とく阿耨多羅三藐三菩提あのくたらみやくぼだいを成じやうぜしむるや。

佛ほとけ、大莊嚴菩薩及び八萬まんの菩薩ぼさつに告つげて言もうさく、善男子ぜんなんし、一いっの法門ほうもんあり、能よく菩薩ぼさつをして疾とく阿耨多羅三藐三菩提あのくたらみやくぼだいを成じやうずることを得えせしむ。若もし菩薩ぼさつあつて是この法門ほうもんを學がくせば、則すなわち能よく阿耨多羅三藐三菩提あのくたらみやくぼだいを得えん。

世尊せそん、是この法門ほうもんとは號なを何等なんらと字なづくる、其その義ぎ云何いかなん、菩薩ぼさつ云何いかなんが修行しゆぎやうせん。

佛ほとけの言もうさく、善男子ぜんなんし、是この一いっの法門ほうもんをば名なづけて無量義むりやうぎと爲なす。菩薩ぼさつ、

無量義を修學することを得んと欲せば、應當に一切諸法は
 自ら本・來・今、性相空寂にして無大・無小・無生・無滅
 ・非住、非動・不進・不退、猶お虚空の如く二法あることな
 しと觀察すべし。而るに諸の衆生、虚妄に是れは此是れは
 彼、是れは得是れは失と横計して、不善の念を起し衆の惡業
 を造つて六趣に輪廻し、諸の苦毒を受けて、無量億劫自ら
 出ずること能わず。菩薩摩訶薩、是の如く諦かに觀じて、
 憐愍の心を生じ大慈悲を發して將に救拔せんと欲し、又復深
 く一切の諸法に入れ。

法の相是の如くして是の如き法を生ず。法の相是の如くし
 て是の如き法を住す。法の相是の如くして是の如き法を異
 す。法の相是の如くして是の如き法を滅す。法の相是の如く
 して能く惡法を生ず。法の相是の如くして能く善法を生ず。
 住・異・滅も亦復是の如し。菩薩是の如く四相の始末を觀察
 して悉く遍く知り已つて、次に復諦かに一切の諸法は念念
 に住せず、新新に生滅すと觀じ、復即時に生・住・異・滅
 すと觀ぜよ。

是の如く觀じ已つて、衆生の諸の根性欲に入る。性欲
 無量なるが故に説法無量なり。説法無量なるが故に義も亦
 無量なり。無量義とは一法より生ず。其の一法とは即ち無相
 なり。是の如き無相は相なく、相ならず、相ならずして相な
 きを名づけて實相とす。

菩薩摩訶薩、是の如き眞實の相に安住し已つて、發する所
 慈悲、明諦にして虚しからず。衆生の所に於て眞に能く苦
 を抜く。苦既に抜き已つて、復爲に法を説いて、諸の衆生
 をして快樂を受けしむ。

善男子、菩薩若し能く是の如く一切の法門無量義を修せん

者、必ず疾く阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得ん。
 善男子、是の如き甚深無上大乗無量義經は、文理眞正に尊
 にして過上なし。三世の諸佛の共に守護したもう所なり。
 衆魔群道得入することあることなく、一切の邪見生死に壞敗
 せられず。是の故に善男子、菩薩摩訶薩若し疾く無上菩提を
 成ぜんと欲せば、應當に是の如き甚深無上大乗無量義經を
 修學すべし。

爾の時に大莊嚴菩薩、復佛に白して言さく、
 世尊、世尊の説法不可思議なり。衆生の根性亦不可思議な
 り。法門解脱亦不可思議なり。我等、佛の所説の諸法に於て
 復疑難なけれども、而も諸の衆生迷惑の心を生ぜんが故
 に、重ねて世尊に諮いたてまつる。

如來の得道より以來四十餘年、常に衆生の爲に諸法の四相
 の義・苦の義・空の義・無常・無我・無大・無小・無生・
 無滅・一相・無相・法性・法相・本來空寂・不來・不去・
 不出・不沒を演説したもう。

若し聞くことある者は、或は煥法・頂法・世第一法・須陀
 洹果・斯陀含果・阿那含果・阿羅漢果・辟支佛道を得、菩提
 心を發し、第一地・第二地・第三地に登り、第十地に至り
 き。往日説きたもう所の諸法の義と今説きたもう所と、何等
 の異なることあれば、而も甚深無上大乗無量義經のみ菩薩
 修行せば必ず疾く無上菩提を成ずることを得んと言ふ、是
 の事如何。唯願わくは世尊、一切を慈哀して廣く衆生の爲に
 而も之を分別し、普く現在及び未來世に法を聞くことあらん
 者をして、餘の疑網無からしめたまえ。

是に佛、大莊嚴菩薩に告げたまわく、
 善哉善哉、大善男子、能く如來に是の如き甚深無上大乗

微妙の義を問えり。當に知るべし、汝能く利益する所多く、人・天を安樂し苦の衆生を抜く。眞の大慈悲なり、眞實にして虚しからず。是の因縁を以て、必ず疾く無上菩提を成ずることを得ん。亦一切の今世・來世の諸有の衆生をして、無上菩提を成ずることを得せしめん。

善男子、我先に道場菩提樹下に端坐すること六年にして阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得たり。佛眼を以て一切の諸法を觀するに、宣説すべからず。所以は云何、諸の衆生の性欲不同なることを知れり。性欲不同なれば種種に法を説きき。種種に法を説くこと方便力を以てす。四十餘年には未だ眞實を顯さず。是の故に衆生の得道差別して、疾く無上菩提を成ずることを得ず。

善男子、法は譬えば水の能く垢穢を洗うに、若しは井、若しは池、若しは江、若しは河、溪・渠・大海、皆悉く能く諸有の垢穢を洗うが如く、其の法水も亦復是の如し、能く衆生の諸の煩惱の垢を洗う。

善男子、水の性は是れ一なれども江・河・井・池・溪・渠・大海、各各別異なり。其の法性も亦復是の如し、塵勞を洗除すること等しくして差別なれども、三法・四果・二道不一なり。

善男子、水は俱に洗うと雖も而も井は池に非ず、池は江河に非ず、溪渠は海に非ず。如來世雄の法に於て自在なるが如く、所説の諸法も亦復是の如し、初・中・後の説、皆能く衆生の煩惱を洗除すれども、而も初は中に非ず、而も中は後に非ず。初・中・後の説、文辭一なりと雖も而も義各異なり。

善男子、我樹王を起つて波羅奈・鹿野園の中に詣つて、

阿若拘隣等の五人の爲に四諦の法輪を轉ぜし時も、亦諸法は本より來空寂なり。代謝して住せず念念に生滅すと説き、中間此及び處處に於て、諸の比丘并に衆の菩薩の爲に、十二因縁六波羅蜜を辨演し宣説し、亦諸法は本より來空寂なり、代謝して住せず念念に生滅すと説き、今復此に於て、大乘無量義經を演説するに、亦諸法は本より來空寂なり、代謝して住せず念念に生滅すと説く。

善男子、是の故に初説・中説・後説、文辭是れ一なれども而も義別異なり。義異なるが故に衆生の解異なり。解異なるが故に得法・得果・得道、亦異なり。

善男子、初め四諦を説いて聲聞を求むる人の爲にせしかども、而も八億の諸天來下して法を聽いて菩提心を發し、中る處處に於て、甚深の十二因縁を演説して辟支佛を求むる人の爲にせしかども、而も無量の衆生、菩提心を發し、或は聲聞に住しき。

次に方等十二部經・摩訶般若・華嚴海空を説いて、菩薩の歴劫修行を宣説せしかども、而も百千の比丘・萬億の人・天・無量の衆生、須陀洹・斯陀含・阿那含・阿羅漢果・辟支佛、因縁の法の中に住することを得。

善男子、是の義を以ての故に、故に知んぬ、説は同じけれども而も義は別異なり、義異なるが故に衆生の解異なり。解異なるが故に得法・得果・得道、亦異なり。

是の故に善男子、我道を得て初めて起つて法を説きしより、今日、大乘無量義經を演説するに至るまで、未だ曾て苦・空・無常・無我・非眞・非假・非大・非小・本來生ぜず今亦滅せず、一相・無相・法相・法性・不來・不去なり、而も諸の衆生四相に遷さると説かざるにあらず。

善男子、是の義を以ての故に、一切の諸佛は二言あること
なく、能く一音を以て普く衆の聲に應じ、能く一身を以て
百千萬億那由他無量無數恆河沙の身を示し、一一の身の中に
又若干百千萬億那由他阿僧祇恆河沙種種の類形を示し、一一
の形の中に又若干百千萬億那由他阿僧祇恆河沙の形を示す。
善男子、是れ則ち諸佛の不可思議甚深の境界なり。二乗
の知る所に非ず、亦十地の菩薩の及ぶ所に非ず、唯佛と佛
とのみ乃し能く究了したまえり。

善男子、是の故に我説く、微妙甚深無上大乗無量義經は、
文理眞正なり、尊にして過上なし。三世の諸佛の共に守護し
たもう所、衆魔外道、得入すること有ることなし。一切の
邪見生死に壊敗せられずと。菩薩摩訶薩、若し疾く無上菩提
を成ぜんと欲せば、應當に是の如き甚深無上大乗無量義經
を修學すべし。

佛、是れを説きたもうこと已つて、是に三千大千世界六種
に震動し、自然に空中より種種の天華・天優鉢羅華・
鉢曇摩華・拘物頭華・分陀利華を雨らし、又無數種種の天香
・天衣・天瓔珞・天無價の寶を雨らして上空の中より旋轉し
て來下し、佛及び諸の菩薩・聲聞・大衆に供養す。天厨
・天鉢器に天百味食充滿盈溢し、天幢・天旛・天軒蓋・天妙
樂具、處處に安置し、天の伎樂を作して佛を歌歎したてまつ
る。

又復六種に東方恆河沙等の諸佛の世界を震動し、亦天華・
天香・天衣・天瓔珞・天無價寶・天厨・天鉢器・天百味・
天幢・天旛・天軒蓋・天妙樂具を雨らし、天の伎樂を作して
彼の佛及び彼の菩薩・聲聞・大衆を歌歎したてまつる。南西
北方・四維・上下も亦復是の如し。

是に衆中の三萬二千の菩薩摩訶薩は、無量義三昧を得、三
 萬四千の菩薩摩訶薩は、無數無量の陀羅尼門を得、能く一切
 三世の諸佛の不退の法輪を轉ず。其の諸の比丘・比丘尼・
 優婆塞・優婆夷・天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・
 緊那羅・摩睺羅伽・大轉輪王・小轉輪王・銀輪・鐵輪・諸輪
 の王・國王・王子・國臣・國民・國士・國女・國大長者及び
 諸の眷屬百千衆俱に、佛如來の是の經を説きたもうを聞き
 たてまつる時、或は煥法・頂法・世間第一法・須陀洹果・
 斯陀含果・阿那含果・阿羅漢果・辟支佛果を得、又菩薩の
 無生法忍を得、又一陀羅尼を得、又二陀羅尼を得、又三
 陀羅尼を得、又四陀羅尼、五・六・七・八・九・十陀羅尼を
 得、又百千萬億陀羅尼を得、又無量無數恆河沙阿僧祇陀羅尼
 を得て、皆能く隨順して不退轉の法輪を轉ず。無量の衆生は
 阿耨多羅三藐三菩提の心を發しき。